

臨床から 公衆衛生の世界に飛び込んで



宮崎県高千穂保健所 所長

成16年宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)卒業。同大学第3内人局。24年宮崎大学医学部附属病院卒後臨床研修センター助教。28~29年Mahidol University 学院留学(Master of Public Health)。宮崎大学医学部助教(附属病院呼吸器内科)を経て、31年4月宮崎県に入庁。22年4月より現職。

呼吸器内科医として臨床を続けていましたが、少しずつ興味が強くなつた公衆衛生の世界に昨年飛び込んでみました。まだまだ右往左往している新人ですが、俯瞰的^{ふかん}的な視点を持って取り組むこの分野に面白さを感じています。特筆するようなものはありませんが、これまでの歩みをまとめてみました。同じように公衆衛生分野に興味を持つ方が増えればうれしく思います。

はじめに

公衆衛生とは何かと問われると、自分の言葉ではなかなか明快に答えることができません。よく言わされるのは「公衆の生命・生活を衛^{まも}すること」であり、Winslowによれば、それはScienceであり、Artであるとされています。なんとなく高尚でかつこいい響きがし、自分とはかけ離れた分野に思っていますが、どういう流れかこの世界に足を踏み入れ、保健所に勤務する公衆衛生医師になりました。

「地域／国／グローバルな単位」へ、「社会の仕組み」へ、「病院」から「地域／国／グローバルな単位」へ。臨床医から公衆衛生医師になつたときつかけとこれまでの歩みを振り返つてみます。

公衆衛生への興味は臨床の現場から

学生時代、公衆衛生学は最も関心の薄い教科だった気がします。そもそも熱心に講義を聴く学生ではありませんでした。特に公衆衛生学の講義は見事なほど記憶に残つていません（ごめんなさい）。

公衆衛生への興味は 臨床の現場から

学生時代、公衆衛生学は最も関心の薄い教科だった気がします。そもそも熱心に講義を聴く学生ではありませんでした。特に公衆衛生学の講義は見事なほど記憶に残っていません（ごめんなさい）。

国家試験直前に慌てて詰め込んだ覚えがあります。卒業後は内科医として臨床現場にどっぷり浸かりさらに遠い存在となっていました。興味も知識もなかつた公衆衛生ですが、少しずつ意識するようになつたのは日々の診療からでした。治療により患者さんの症状が緩和する、疾患が治癒することは臨床医として大きなやりがいですが、思い通りにならないケースが多いのも臨床です。病氣にかからないための予防ができれば、早くに診断できていれば、病氣とうまく付き合うためのサポートがあれば、と思う毎日でした。呼吸器内科を専門としていましたので、治癒の難しいたばこ関連疾患の患者さんを診る度にそういう思いでし。た。だんだん「医療や健康をもつと大局的・俯瞰的に捉えられるようになりたい」と考えるようになり、それが公衆衛生に興味を持つ

の大学院（MPH・公衆衛生学修士）へ留学しました。疫学、生物統計学、医療政策学、行動科学／健康教育、環境保健学／労働安全衛生といった公衆衛生学の土台となる5分野に加え、リーダーシップ論や組織管理学などを学びました。座学の他にコミュニティーに入つての地域診断などを経験し、フィールドに出る面白さを実感しました。また、学位論文のために「高齢者肺炎球菌ワクチン接種に関わる背景因子」をテーマに疫学調査を行い、調査分析による課題抽出の大切さを学びました。

公衆衛生学を学んだ 大学院留学

流行は収まりつつあります。しかし、まだまだ分からぬことの多いこの感染症によって社会活動がこの先どのようになるのか、想像もつきません。医療のみならず、経済、教育、文化、観光、人権等あらゆる分野が大きく影響を受けています。世界を見渡しても程度の差はあれ、ほぼすべての国や地域、人種が大変な思いをしています。

は虫の目で仕事をしていますが、同時に地域を超えた（時にグローバルな）俯瞰的な鳥の目、その潮流を読み取る魚の目を養うことを日々意識し精進したいと思います。これが私にとって公衆衛生分野で働く醍醐味だいごみなのかな、と思つています。いつ収束するか予測のつかない新型コロナウイルス感染症流行を経験する中、そのように感じるこの頃です。

教員として臨床と教育の日々に戻りました。学生への臨床講義では、講義内容の呼吸器疾患に加え、それとなく公衆衛生の面白さを伝えようになりました。臨床に役立つようと思い公衆衛生を学びに留学しましたが、そのうち実務として現場に出たいと思うようになりました。また、10か国45人の留学時のクラスメートが世界各地でそれぞれの公衆衛生フィールドで活躍しているのも励みになりました。振り返ると、留学の経験が公衆衛生医師に方向転換した大きなきっかけだったと思います。臨床を離れるのは大きな決断でしたが、思い切って公衆衛生の世界に足を踏み入れてみました。

宮崎県の公衆衛生医師になり1

年少しがたちます。病院と異なる環境、仕事内容もさることなが

験がない中、赴任先の保健所の皆さんには丁寧にご指導いただきました。足手まといになりながらも現場へ同行し保健所業務の実際を

公衆衛生医師になつてから

この原稿を書いている今（令和2年5月中旬）、新型コロナウイルス感染症は100年に一度ともいわれる世界的大流行となつてしまひました。幸い日本では当初の

新型コロナウイルス感染症流行と 公衆衛生

メーリングリストや個人のつて等により、置いていかれないよう情報収集をする日々です。新しい情報を得て世界の情勢を正しく把握するためには、多角的・大局的な視野が大切だと思っています。これは、日頃の保健所業務において総合的でバランスの取れた感覚が大事であると感じています。もともと医療や健康を俯瞰的に捉える眼を養いたいとの思いで公衆衛生を学んだ私には、この分野で働くやりがいを感じています。

保健所の公衆衛生医師として、地域の課題抽出、解決への取り組み、関係機関との連携など、日頃

A close-up, black and white photograph of a dense cluster of morning glory flowers. The flowers are large, with distinct radial patterns and bright centers, surrounded by large, textured leaves. The image is framed by a white border.

